

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画

第2回策定委員会 次第

- 1 日 時 令和6年8月21日(水) 18時30分～
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階第1、第2会議室
- 3 議 題

(1) 開会

(2) 委員長挨拶

(3) 議事

①第1回策定委員会 会議要録確認 (資料1参照)

②第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の振り返りについて (資料2参照)

③グループディスカッション (裏面参照)

(4) その他

- ・策定委員会議事要録校正の送付について

(5) 次回日程

- ・9月11日(水) 18時30分より 武蔵野商工会議所 5階 第1、第2会議室

【配布資料】

資料1 第1回策定委員会議事要録

資料2 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画6年間のふりかえり報告書

第2回地域福祉活動計画策定委員会
第4次活動計画のふりかえり 委員グループ分け

(委員敬称略)

グループA	熊田委員長
	阿部委員
	見城委員
	福本委員
	(職員) [進行] 河合、[記録] 岡田

グループB	酒井副委員長
	鈴木委員
	西田委員
	山田委員
	(職員) [進行] 横山、[記録] 後藤

グループC	坂井委員
	馬場委員
	宮田委員
	吉田委員
	(職員) [進行] 中村、[記録] 林

グループD	和委員
	川鍋委員
	町田委員
	(職員) [進行] 佐々木、[記録] 木原

欠席：市川委員

第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第 1 回）会議要録

- 1 日 時 令和 6 年 7 月 3 日（水）18 時 30 分から 20 時 30 分まで
- 2 場 所 武蔵野市役所 412 会議室
- 3 出席委員 阿部、市川、和、川鍋、熊田、見城、坂井、酒井、鈴木、西田、馬場、福本、町田、宮田、山田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 千種会長、福島常務理事、田村事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

- (1) 開 会

- (2) 委嘱状の交付

- (3) 会長挨拶

【会 長】 本日はご出席賜りまして誠にありがとうございます。第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画は、令和 6 年 3 月に策定された武蔵野市第 4 期健康福祉総合計画・第 6 期地域福祉計画と連動して、市民を主体とした福祉活動の一層の推進のため、策定を進めていかなければならないと思います。

今年度末までの期間となりますが、ご尽力を賜りたく、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

- (4) 委員紹介

- (5) 事務局紹介

- (6) 正副委員長の選出

第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱第 5 条に基づき、委員長に熊田委員が選出された。また、副委員長に酒井委員が指名された。

- (7) 議 事

議事に入る前に、第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会傍聴基準に基づき、委員会の傍聴について諮り、承認された。また、会議要録について、武蔵野市民社会福祉協議会ホームページへの公開が承認された。

【委 員】 傍聴に関する周知の状況について教えてもらえますか。

【事務局】 ホームページで周知しております。

【委 員】 知人に声をかけてよいのでしょうか。

【委員長】 問題ありません。

①第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）策定にあたって別紙資料 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定にあたってに基づき、熊田委員長より説明を行った。

【委員長】 何か全体的なことでも、意見がある委員はいますか。

【副委員長】 委員長から、わからないことでも自分の思ったことは発言してくださいと話があったので、私からも安心して話してくださいとお伝えします。委員長からは、武蔵野市が他の自治体と比べて非常にユニークであるというお話がありました。今日は初めてお会いする方や他の自治体に住む方もいるので、ボランティアセンター武蔵野（以下「VCM」）運営委員会委員長として少し知識を共有したいと思います。別紙資料① 武蔵野市民社会福祉協議会法人設立40周年記念誌の14ページには10年間の主な出来事が書かれています。武蔵野市は、江戸の大火により家を焼かれた人々が命からがらこの土地に辿り着き、地元の農家の人たちが「うちの土地を使って」と支えてくれた歴史があります。次に、関東大震災で東京の中心から武蔵野市へ着の身着のまま多くの人に移り住み、農地だった土地の区画整備が行われました。そして最後に、第二次世界大戦の戦火から逃れてきた人たちが新たに住民となったのですが、知識人や文学者や芸術家が多数いたことにより、武蔵野市として市制施行した当初から個人の自由を尊重し、市民参加でまちづくりを行うことがスタートしています。このことを具体的に示す例として、武蔵野市は社会福祉協議会が設立されるより前に、市民主導でボランティアセンターができています。そして社会福祉協議会設置の際は名称に「市民」の文字を入れて「武蔵野市民社会福祉協議会」としました。また、委員長からお話があったとおり、地域福祉活動計画は法の規定に基づく計画ではないため、計画の名称にも市民の文字が入っています。このように、武蔵野市は他者を受け入れる風土、そして、市政開始当初の個人の自由や意見を尊重する特徴を踏まえて、委員の皆さまもユニークな意見をどんどん出していきましょう。現在の武蔵野市民は約15万人で、新たに移り住んできた多くは子育て世代です。武蔵野市が形成される過程を知らない新しい市民に、住んで良かった、ずっと住み続けることを誇りに思ってもらえる計画策定に向かい、大いに話し合しましょう。

【委員長】 副委員長より話があったとおり、武蔵野市は、先駆的に様々取り組まれてき

ました。今も先駆的に取り組んでいると思いますが、その先駆性というのは、行政だけで行うことや、社協だけで行うだけではなく、市民、行政、社協、それからその関係の事業者の皆さんで一体的に進めることが大事だと考えています。副委員長より話のあったとおり、誇りを持って取り組むということが、やはり大事だと思いました。

【委員】 副委員長より話のあった通りですが、武蔵野市は非常に革新的な取り組みを行ってきました。コミュニティ構想なども先駆的なものだと思いますし、地域の皆さんは一生懸命様々なことに取り組んでいます。これまでの取り組みによって、一部が固定化し、進行が停滞している部分もあるかもしれません。既存の取り組みを強化するという必要だと思いますが、既存の取り組みを改めて精査し、それを効率的に繋げることが、今回の活動計画の中で最も重要なことではないでしょうか。

【委員長】 VCMの初代委員長である西尾先生により、70年代にコミュニティセンター構想が生まれましたが、その構想はいわゆる自立した市民を実現するための一つの実験だったと思います。そこが今も大事に取り組まれています。ただ、一方でその構想が50年経過し根詰まりしてきているところがあるだろうと思います。そういったところは、今後皆様のご意見を聞きながら、引き続き考えていけるといいのではないかと思います。

【委員】 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」）の3ページ目には2024年の目標が書かれています。ここには理想とする姿が示されていると思いますが、第5次活動計画はおそらく第4次活動計画の成果を踏まえて立てられるでしょう。第4次活動計画で設定した目標はどれだけ達成されたのか、その評価を含めて今後の展望が第5次活動計画の基盤を形成すると考えます。また、2019年から2024年はコロナ禍でしたので、第4次活動計画の完遂は容易ではないと思います。委員も指摘されたように、これらの点が考慮されるべきです。そのためにも、第5次活動計画に入る前に現状を振り返り、フィードバックして見直すことが重要だと感じました。

【委員長】 第4次活動計画が策定された後、計画を進行管理するための推進委員会が年に2回程度開催されているのですが、今年の6月に最後の委員会を開催し、その報告書をまとめています。次回の委員会では、皆様には推進委員会の報告書を踏まえ、振り返りや今後の方針について意見をいただきます。その意見を踏

まえ、第5次活動計画に繋げていきたいと考えていますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

【副委員長】 私が武蔵野市の成り立ちについて話したとき、市民自ら積極的に参画していたことを伝えましたが、まさにその取り組みを支えてきた方々が現役で今も活動されているからこそ、武蔵野市での暮らしは健やかなのだと思います。話は変わりますが、武蔵野市に住みたいと思って移り住んだ子育て世代が、高い家賃を理由に直ぐに引っ越してしまうことがないよう、武蔵野市の素晴らしさが反映された計画になれば良いと考えています。

【委員】 副委員長より話のあった内容に大賛成です。先人たちが苦勞されてきて、先進的なシステムを築いていることは、日本でも誇るべきものです。地域社協で日々活動している先輩方は本当に素晴らしい方々だと感じています。今回の計画に携わらせていただく際には、“ふつうにくらすためのしくみ”を大切にし、その結果として後続の世代が先進的な取り組みだったと認識してもらえような役割を果たせればと考えています。

【委員】 福祉の活動は、物凄く幅広いと思います。地域社協、子育て、生活困窮、障がい者や高齢者等、様々な活動がある中でも、地域の中で活動している方が同じ顔という状況を私は30年間ずっと見てきて、何かやりづらいと思いました。地域で“ふつうにくらすためのしくみ”ということと言い換えれば、多様な人々が、自分らしく暮らす仕組みということだと思います。全ての福祉を何とかしようという計画を立てると、幅広過ぎる割には、視野が狭いのではないかと思います。例えばLGBTQの方やWケア、子育て、高齢者等、それぞれの分野で活動している人たちは沢山いると思います。そのような当事者が不在の形で計画を進めていくことに限界があるのではないかと感じています。私は、防災関係の活動をしているのですが、コロナ禍で3年間活動がストップしました。それにより、活動の担当者がみんな変わっていて、実際活動ができないという人たちが多くて、新たに自分が代表になってから、色々な分野の方々に声をかけてもう一回作り直しています。そうすると、この分野はこの人たちに任せてやらせよう、こうしてもらおうという意見が出ました。そのため、同じ人が担当していると、視野が狭くなっていくというのが、何か感じているところなので、地域福祉のシステムとして、誰がどこまでやるのかということをお願いしながら、進めていきたいなと思います。

【委員長】 地域福祉計画や地域福祉活動計画について、その基盤として住民のつながりが重要であるという考え方は、確かにそうだと思います。過去から現在に至るまで、地域社会では問題が生じた際に互助的な解決が行われてきましたし、これが現代社会でも重要であることは間違いありません。たとえば、農村などの伝統的な地域では、子育てなどのサービスが不十分な場合でも、住民同士が力を合わせて子育てを支え合っている例があります。ただし、高齢者の数が増えた今日では、100年前と比べると高齢者の支援が不足していた時代もあったかもしれませんし、姥捨てのようなことも行われたと言われていています。つまり、互助には限界がある一方で、何ができるかは多岐にわたるとも言えます。しかしながら、現代の都市においては、地域内のつながりをどう構築していくかについて、簡単な解答は存在しないとも言えます。委員が推進する防災活動は、その一例であり、地域のつながりを築く重要なキーであると考えます。ただし、依然としてつながりが薄い人々も存在し、意識の違いもあります。つまり、関心のある人々は取り組みに参加する一方で、無関心な人々は参加しないという状況もあります。これが同じ顔ぶれでの活動継続につながる要因の一つでもあると考えます。そうした中で、私たちはどうやって現在の都市におけるつながりを築いていくか、様々な手法を模索している段階にあると率直に思います。地域のつながりを作る方法については、マニュアル等で対応することが難しいことであり、皆で知恵を出しながら考える必要があると感じます。武蔵野市においても特有の地域の複雑さがあり、他の地域と同じ取り組みが通用するかどうかは未知数です。また、地域福祉活動計画自体が対象を限定しない漠然とした計画であるため、理解しづらいことは当然だと思います。しかし、地域福祉活動計画は福祉を推進するための基盤であり、それゆえ対象が明確ではないこともあります。障害者福祉計画や子どもに関する計画など、法令に関する計画は対象が明確ですが、地域福祉計画や活動計画はあらゆる人々に関わるため、誰を対象にすれば良いのか見えにくい側面もあります。したがって、どの地域も模索しているこの問題に対し、私たちの考えが武蔵野市に適する方法であるかを、委員の皆様の見意を出しあいつつ探っていきたいと思っています。また、武蔵野市に住む人々は、特定の地域への緊密なつながりを求めているわけではないと考えます。むしろ、武蔵野市らしいお付き合いの仕方やつながりの形として、何が適しているのかを考える必要があると思います。

【委員】 これからの武蔵野市らしいつながり方を考える必要があると話がありました
が、今まであったつながりが徐々に消えていくことをどうするかも大きな問題
だと思います。かつては町会や商店会などの自治組織が地域でお祭りを開催し
ていました。そのように機能していた自治組織のつながりがなくなりつつあり、
沢山の人がそのようなつながりを継続したいと思っているものの、継続できな
い現状があります。先ほどの話を聞いて、既になくなったつながりは、なかつ
たものとして、新しいつながりに変えていくという発想なのかなと感じました。

【委員長】 あくまで今まであったつながりを大事にするということは大前提にあるため、
それは誤解であることをまずお伝えします。それを踏まえ、武蔵野市の場合は
自治会・町会がなかなか機能しないというか、元々ないというように言われて
おりますが、例えば他の自治体では解散した自治会・町会を復活させようとい
う話もあります。

【委員】 自治会がなかったというのは、誤解だと思います。武蔵野市の中では、行政
の枠組みの中でそれが見えていなかっただけだと思います。私が住む地域では、
商店会があり、それも一つの自治会だと思います。西尾先生によりコミュニテ
ィセンター構想が生まれた時代から機能していた自治会が、今なくなりつつあ
るということが問題だと考えております。

【委員長】 ありがとうございます。そのような自治会や町会の問題について、どのよう
に向き合っていくかをこの策定委員会で議論しなければならないと考えており
ます。今後も、私が事実と異なることを伝えておりましたら、是非お伝えいた
だきたいと思います。本日は私が話題提供をしましたが、第5次活動計画は皆
さんで作る計画であり、これから多分グループワーク等にて様々な意見を出し
合ってもらいます。そのような意見に対して、「こうしたほうがいい」等と議
論しつつ、まとめていけると良いと思っています。

【委員】 委員長の説明の中で、包括的支援体制という用語が出てきましたが、これが
できた経緯というのがあります。その経緯が東日本大震災で被災した石巻市の
事例であり、震災発生前より地元の行政と社協と石巻専修大学で三者協定を進
めていたことで、浸水地域に近い石巻専修大学を拠点として災害ボランティア
センターを運営し、支援団体の円滑な受け入れをすることができました。この
事例により、つながるきっかけとなったテーマは、防災になります。私はつく
ば市にも社協に関する研修目的で伺っておりますが、つくば市は地盤が硬く、

災害リスクが少ないため、住民は防災に関してあまり関心を持っておりません。今後、武蔵野市における地域の特性を共有しつつ、新たな人々を巻き込むためのテーマとは何かを話し合うのはどうかと思いました。

【委員長】 委員会では皆さんが一丸となって意見を出し合うことが重要であり、それぞれの立場での意見を尊重しながら、良い計画を作るためにはこの前提が欠かせません。この勢いを保ちながら半年間、進めていけば良い計画ができると感じています。事務局の皆さんにも支えてもらいながら、副委員長と共に、引っ張りながら進めていければと思います。今日得たことを踏まえ、次回の会議でも深めていきたいと考えています。皆さんの勇気ある意見に感謝しています。これからも武蔵野をより良いまちにするために、生活の課題に向き合っていくたいです。これから半年間、どうぞよろしく申し上げます。

②地域懇談会の参加の呼びかけについて

別冊資料⑥ 地域懇談会チラシに基づき、事務局より説明を行った。

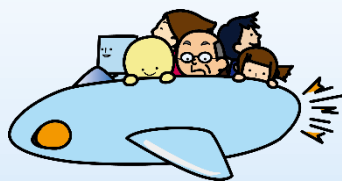
(8) 今後の進め方について

資料5 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 策定スケジュール等に基づき、事務局より説明を行った。

【委員長】 ほかになければ、これで第1回の策定委員会を終わります。

第4次

武蔵野市民地域福祉活動計画 6年間のふりかえり報告書 (2019～2024)



令和6年8月

社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

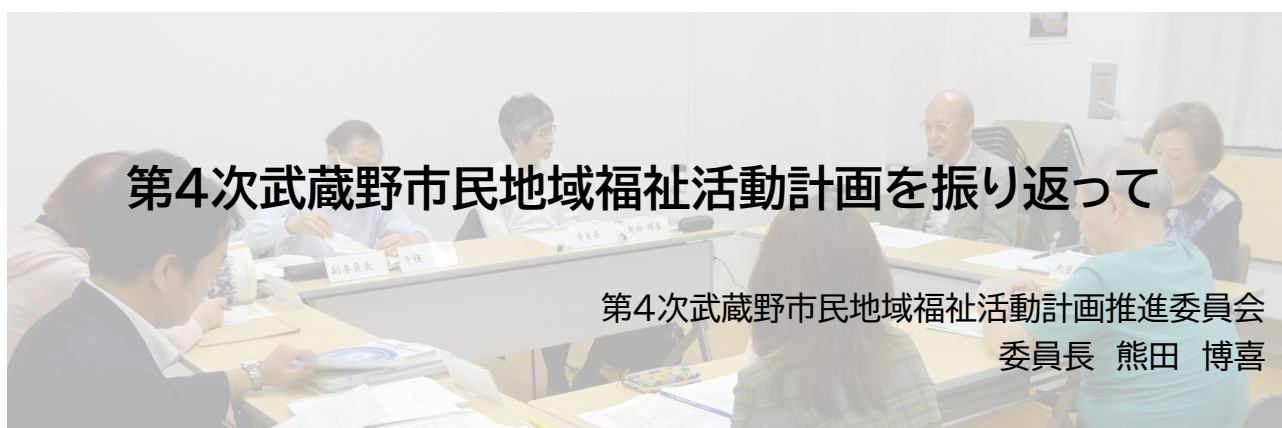


第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 6年間の振り返り報告書

(2019～2024)

目次

1. 基本目標と達成に向けた取り組み …………… 1
2. 重点的な取り組み …………… 17
3. 次期計画策定に向けて～推進委員から一言～ …………… 24
4. 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会名簿 …………… 25



本計画期間は、2019年度～2024年度という6年間が該当しますが、まず記憶に留めておかなければならないことは、計画実施期間の大半が新型コロナウイルス感染症の拡大に重なってしまったことです。策定当時は、「居場所づくりの展開」「さまざまな相談の場と機能の充実」そして「地域社協の発展」を重点的な取り組みとして位置づけ、武蔵野市の地域課題と向き合い地域づくりを進める予定でした。しかしながら対面による地域活動が大幅に制限を受け、更に生活困窮や孤立等の課題が浮き彫りになる中で、活動も模索しながらの6年間となりました。そのような状況下にあっても地域の方の創意工夫によって新たな居場所等の地域実践が生み出され、市民社協の皆さまもそれを支えられました。

2025年度から新たな計画の策定も動き始めます。コロナの状況下で学んだこと、浮き彫りになった地域課題を踏まえて、更に活動を進めていく必要があります。今後も地域や関係機関の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

1. 基本目標と達成に向けた取り組み

各目標の6年間(2019～2024)の達成状況のめやす

[評価の基準]

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会は、基本目標の取り組みごとに右の基準でふりかえりを行いました。6年間のふりかえりでは、ステップ3における評価の平均値をもとに、下の4段階(表1)で達成度を表しています。達成度がわかりやすいよう記号で最終評価を示しました。各取り組みの詳細は2ページ以降をご覧ください。

基本目標の評価基準	
「4」	=目標以上に進んでいる
「3」	=着実に進んでいる
「2」	=課題が生じ進んでいない
「1」	=全く進んでいない

表1	6年間の取り組み 目標の平均値	×	△	○	◎
		~2	2.1~2.9	3~3.4	3.5~

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の 最終評価(下の7項目の平均値)	△ (2.56)
--------------------------------------	-------------

	取り組み(大項目)	達成度
1 地域をより元々る人づくり	(1) 地域の福祉情報・ボランティア情報を分かりやすく発信する (P.2-3)	△ (2.3)
	(2) より多くの人々が地域の福祉に関心をもつ機会を増やす (P.4-5)	△ (2.5)
	(3) 地域活動の担い手を増やす (P.6-7)	×
2 人がつながる地域づくり	(4) 「顔が見える関係」をつくる (P.8-9)	△ (2.6)
	(5) 人と人とがつながる「場」をつくる (P.10-11)	○ (3)
	(6) 人や団体同士をつなげる (P.12-13)	○ (3)
3 たすけあいのしくみづくり	(7) 地域での孤立を防ぐ (P.14-15)	△ (2.5)
	(8) 地域の福祉活動・ボランティア活動を支える (P.15-16)	※1

(※1) (8)は市民社協の組織体制にかかわる取り組みのため、推進委員会では評価しないこととした。

計画期間の6年間と新型コロナウイルス感染症の影響

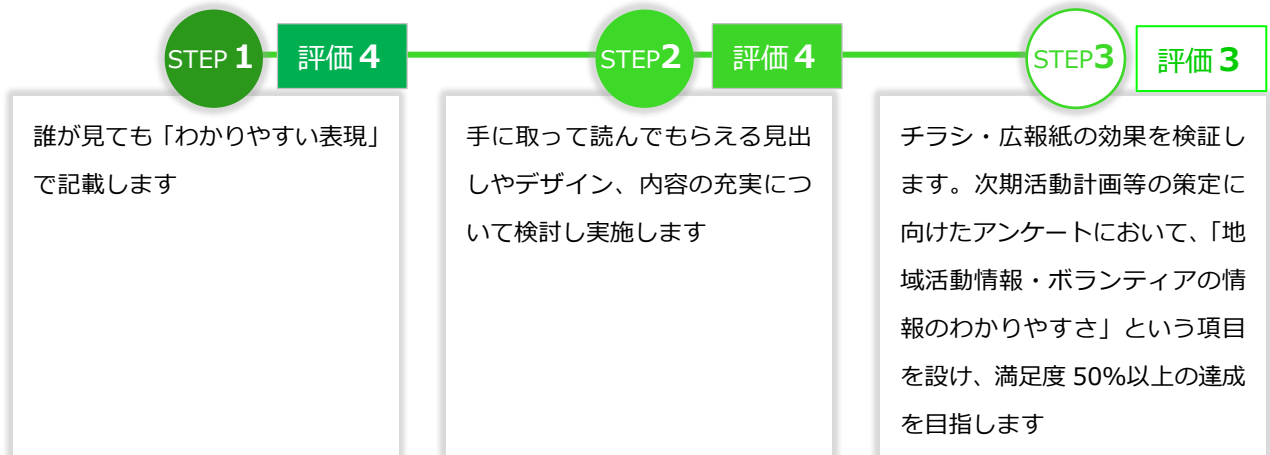
年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
コロナの影響		2020年4月 1回目の緊急事態宣言			2023年5月 5類移行→
計画期間	STEP 1		STEP 2		STEP 3	

1 地域をささえる人づくり

(1)地域の福祉情報・ボランティア情報を分かりやすく発信する

(1)-1 チラシ・広報紙などの内容を改善しましょう

6年間で達成するためのステップ



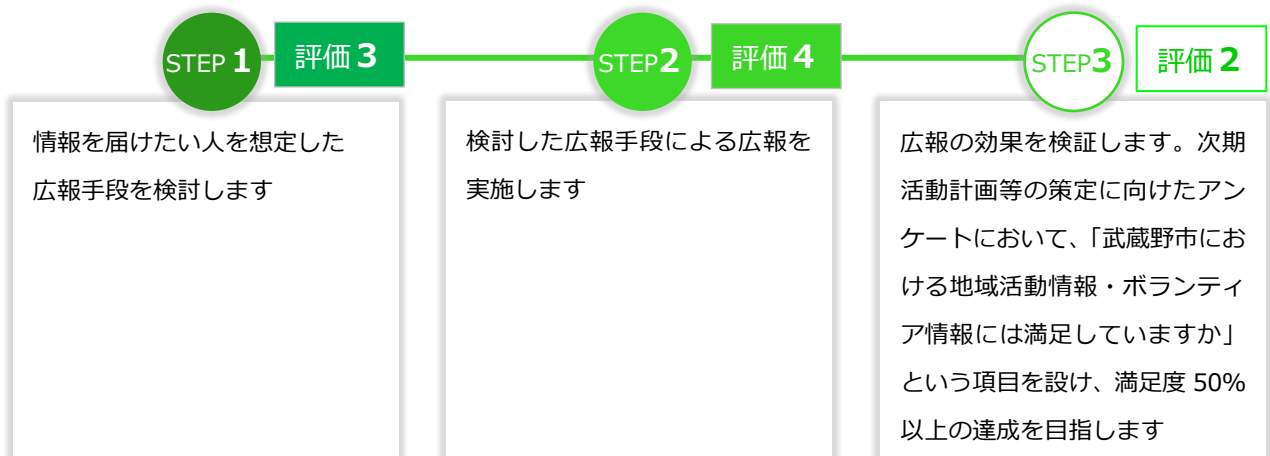
3つのSTEPで取り組んだこと

- 市民社協の広報紙「ふれあい」は公募した広報委員による広報紙づくりに変更するとともに、地域の活動を紹介する記事や委員の取材記事を掲載するなど、構成を見直した。(STEP 2)
- 多くの地域団体でわかりやすい表現を意識して広報紙等の作成に取り組んでいた。複数の地域社協がネット印刷によりカラー化したり、プロボノ※を活用してデザインを見直すなど、関わっていない人にもわかりやすい表現を目指して見直しに取り組んでいる。(STEP 1・2)

※プロボノ…社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献活動。

(1)-2 対象を明確にした情報提供を行いましょ

6年間で達成するためのステップ

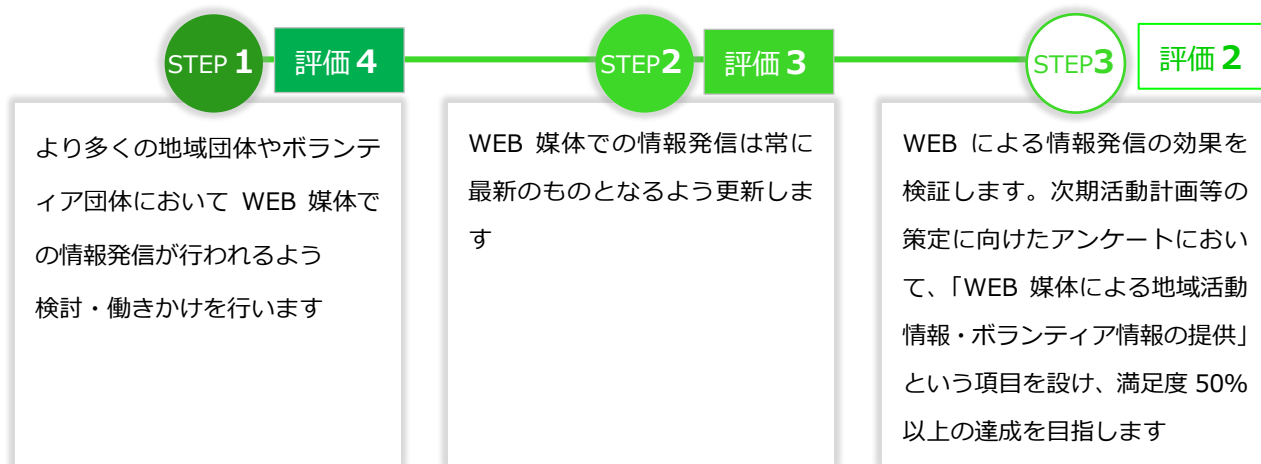


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 地域社協では、13 地域社協のうち、11 の地域が X(旧 Twitter、以下「X」) に取り組み、12 の地域が紙媒体を継続している。(STEP 2)
- 市民社協では、インターネットを活用する世代に向け、ホームページや SNS による情報発信を強化した。ホームページのスマートフォン対応のほか、Facebook、X など、用途を分けた更新を行っている。また、令和 5 年度には、Instagram アカウントを開設した。(STEP 1・2)

(1)-3 WEB 媒体による情報発信を行いましょ

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEP で取り組んだ こと

- 地域社協運営委員を対象とする研修会の開催や投稿のルール等を市民社協で定めたことにより、最初取り組みに抵抗があった人（地域）も、WEB 媒体に関心を持つようになった。(STEP 1)
- 市民社協では、ホームページと SNS で随時情報発信する体制に移行できた。(STEP 2)

推進委員からのメッセージ

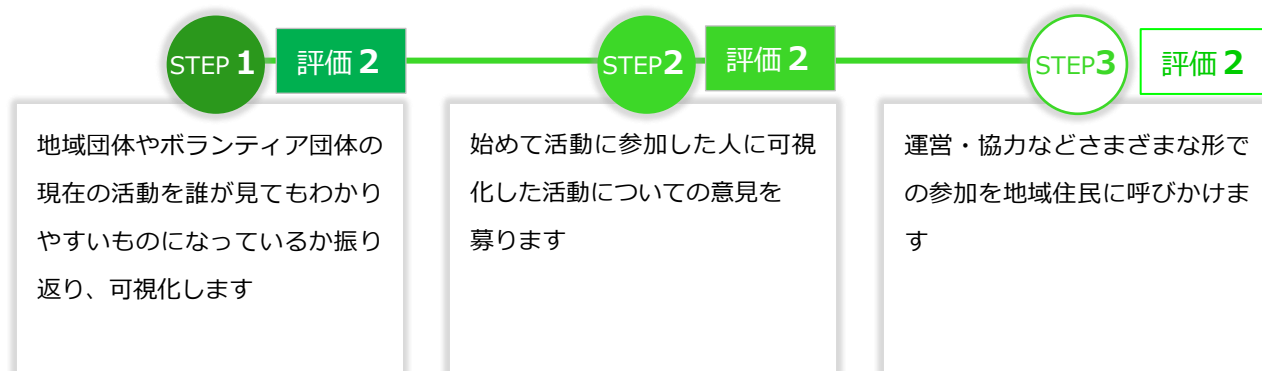
- 広報紙ふれあいが以前と比べ、内容が良くなり読みやすくなったと感じています。身近な地域の方々の活躍を伝える記事も多くなり、読んでいて楽しくなります。年齢層によって情報源にしている人も多いので、今後も力を入れて欲しいと思います。
- 地域特性もありますが、好事例を共有していくことによって、より良い取り組みができるのではないかと思います。
- 意識して継続的に進められており、ホームページやSNSによる情報発信は更新頻度を上げる努力が見受けられます。
- わかりやすく伝えた先にあるものとして、「活動への結びつき」があると思います。今後も活動に結びつくようなわかりやすい情報をどう提供できるか念頭に進めていくことが大事だと思います。

(2)より多くの方が地域の福祉に関心をもつ機会を増やす

(2)-1

地域活動やボランティア活動に対する理解を広め、さまざまな形で地域に出合うきっかけをつくりましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEPで取り組んだこと

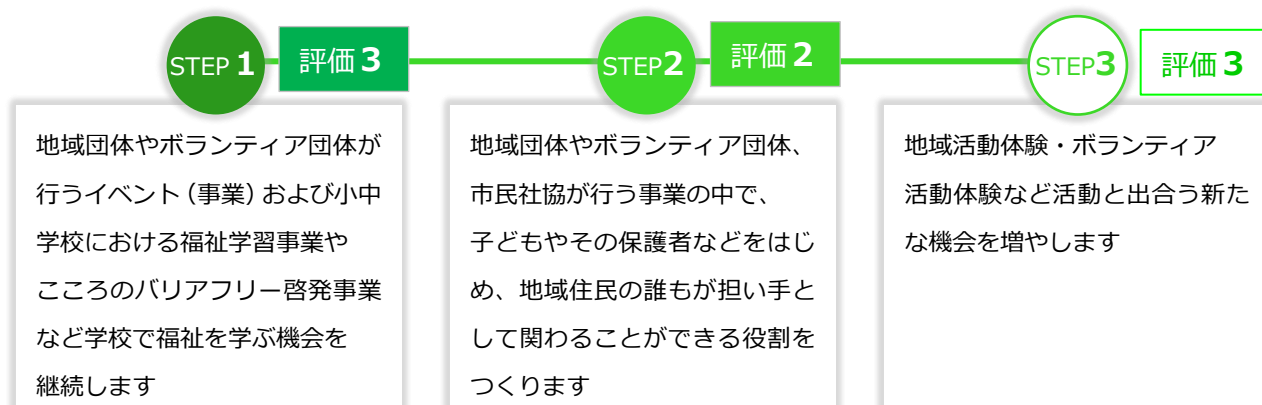
- 地域社協では、令和3年度の地域社協運営委員研修においてグラフィックレコーディング※を体験し、自分たちの活動や意見を文字やイラストで可視化することの意義を学んだ。(STEP 2)
- 地域社協では、活動中のPRとして、地域社協名の入ったベストやポロシャツ等を着用したり、活動中にのぼり旗を設置するようにした。(STEP 1)

※グラフィックレコーディング…会議やプレゼンテーションの内容をわかりやすくまとめるために、絵や図形を用いる手法。

(2)-2

子どもが地域福祉に出合う機会を増やしましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEPで取り組んだこと

- 市民社協の実施する福祉学習事業や心のバリアフリー啓発事業は、コロナ禍でもオンラインで学習プログラムを実施した。(STEP 1)
- ボランティアセンター武蔵野のボランティアキャンペーンは、夏休みや春休みの期間でボランティア体験や福祉に関する学習ができるプログラムを実施している。(STEP 2)

推進委員からのメッセージ

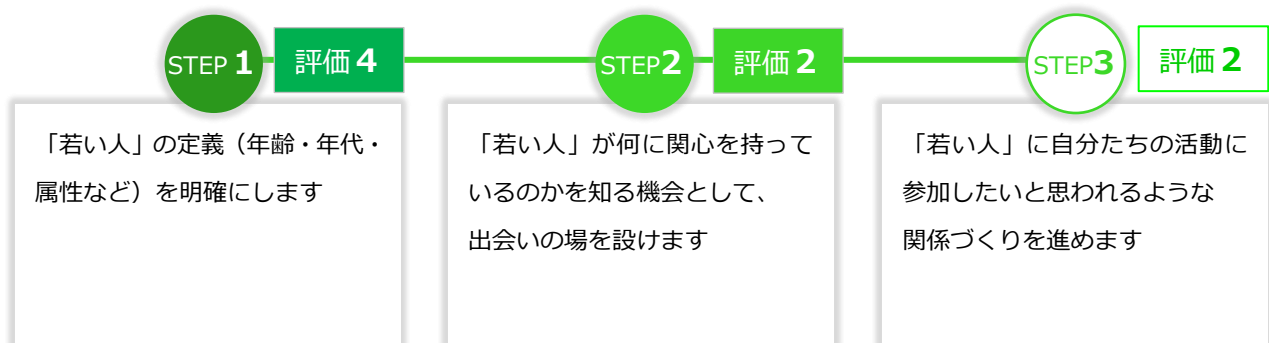
- 1つの地域社協では、小中学校の理解を得て、地域で活動している団体と共に、学校のフェスティバルの中で、PRをしました。子どもや保護者に「地域の団体でこんなところがあるのか」と知っていただくことができました。このような事例を今後も継続していくことが大切です。
- 子どもが地域福祉活動に関わる機会として、地域と学校と子どもが上手につながっていることで、子どもたちが顔を覚えて声をかけてくれるなどの嬉しさもあります。
- 子どもがきっかけで保護者を、また、保護者がきっかけでその親を、というような形で、多世代を巻き込んでいく取り組みができるとういと思います。

(3)地域活動の担い手を増やす

(3)-1

「若い人」の参加を望む地域団体・ボランティア団体は、
若い人の活動への定着を目指しましょう

6年間で達成するためのステップ

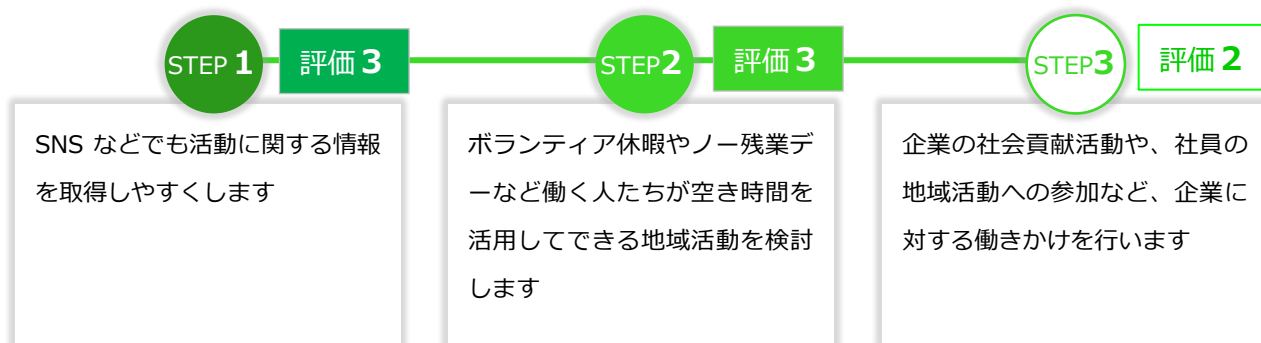


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 地域社協で若い人の定義を考えた結果、年齢という区切りよりも新しい人の参加を望む地域が多いことが分かった。具体的なアプローチ対象として「転入者」「私立の小中学校に子どもを通わせる人」「PTA 役員経験者」「他団体に所属していない人」が挙げられた。(STEP 1)
- 複数の地域社協で、さまざまな世代が参加できる企画として、地域の公園でラジオ体操を行ったり、小中学校と連携してイベントを行った。(STEP 2)

(3)-2 働いている人が参加しやすい活動方法を目指しましょう

6年間で達成するためのステップ

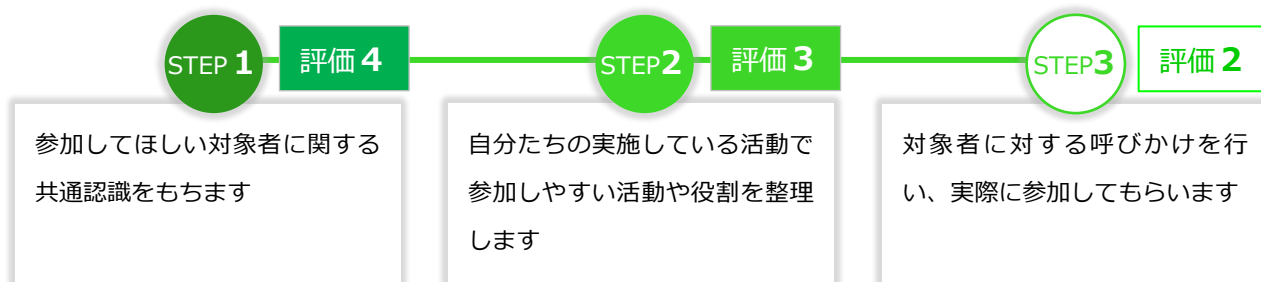


3つのSTEPで取り組んだこと

- 市民社協主催の会議では、対面とオンラインのハイブリッド開催を導入した。(STEP 2)
- いくつかの地域社協では、新しい参加者を受け入れるなかで、働く人が参加しやすい土日や夜に会議の開催時間を変更した。(STEP 2)
- 地域社協では、イベントなどでエリア内の企業等と連携するところが増えてきている。(STEP 3)

(3)-3 担い手を増やすために、これまでの活動内容や活動方法を見直しましょう

6年間で達成するためのステップ

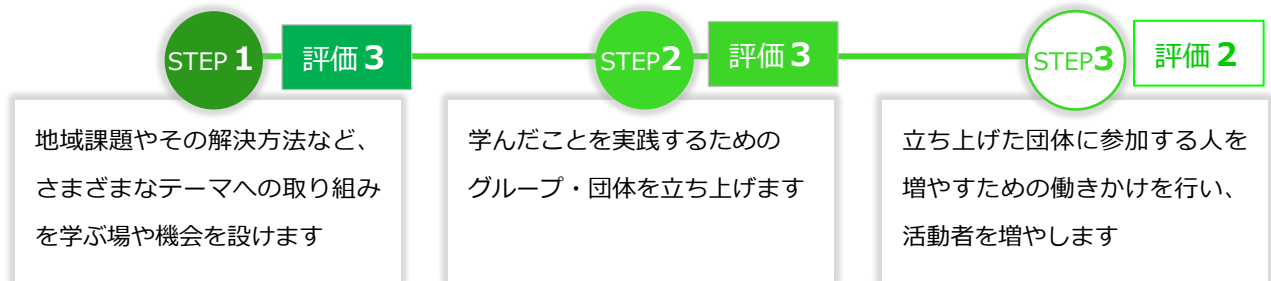


3つのSTEPで取り組んだこと

- 転入者向けの取り組みを検討する際に、「役員を押し付けられそう」などの理由から地域社協に参加しづらいとの声に対し、いくつかの地域社協では、「すぐ役員に誘わない」「1回だけの手伝いも可」と強調して誘うことに取り組んだり、役員体制を見直したりした。(STEP 2)
- 市民社協では、各地域社協で出た意見をもとに作成した「新しい仲間を見つけるためのステップアップシート」を、地域社協の役員や運営委員に配付し、新しい担い手になる方との関わり方について周知した。(STEP 2)

(3)-4 新しいグループ・団体を立ち上げ、活動者を増やしましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEP
で取り組んだ
こと

- 市民社協の地域福祉活動助成は、スタート助成や定着助成区分など、活動結成歴の浅い団体を対象とした助成制度を増設するなど見直しを行った。(STEP 1・3)
- 市民社協では、子ども・コミュニティ食堂及び子どもの学習・生活支援ネットワーク連絡会を開催し、既存の団体やこれから始めようと考えている個人・団体が、お互いの悩みや情報を共有できる場づくりをしている。(STEP 1)

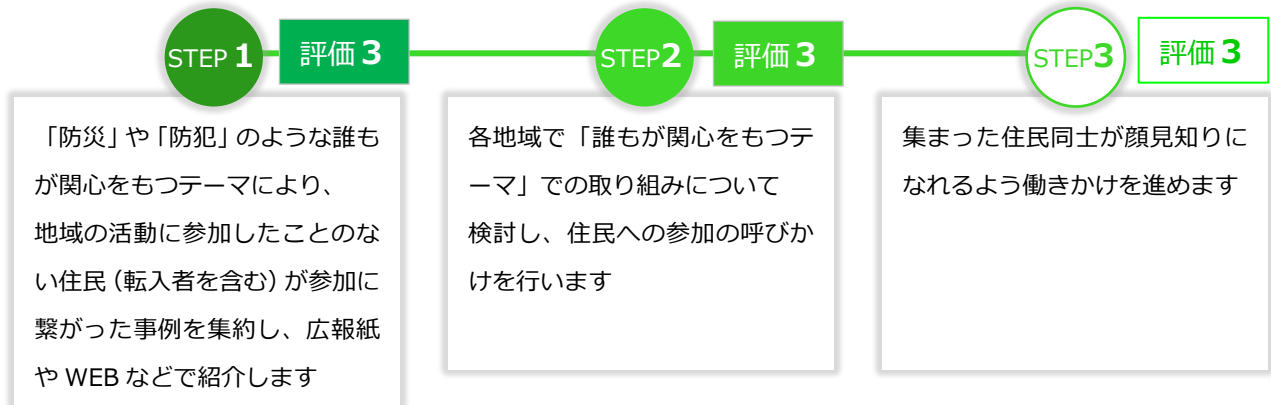
推進委員からのメッセージ 

- 若い人が参加する動機として、自分が楽しめることがポイントにあると思います。受け入れる側の取り組みとして、「行ってみたら楽しかった」と感じてもらえるような募集の仕方をする、また行きたいと思ってもらえると思います。
- 共働き世帯の増加や高齢者でも働いている人が増えるなど状況が変化しているので、地域で考える高齢者は80歳くらいからなどと位置づけを見直しても良いかもしれません。
- 団体の中でメンバーの得意・不得意を見極め、役割を割り振る仕組みがある良いと思います。
- 地域課題や新しいテーマ、方針がメンバー間で共有できれば、まず団体やグループを立ち上げて、行動してみることも大事だと思います。

(4)「顔が見える関係」をつくる

(4)-1 住民同士が出会い、顔見知りになれる機会を増やしましょう

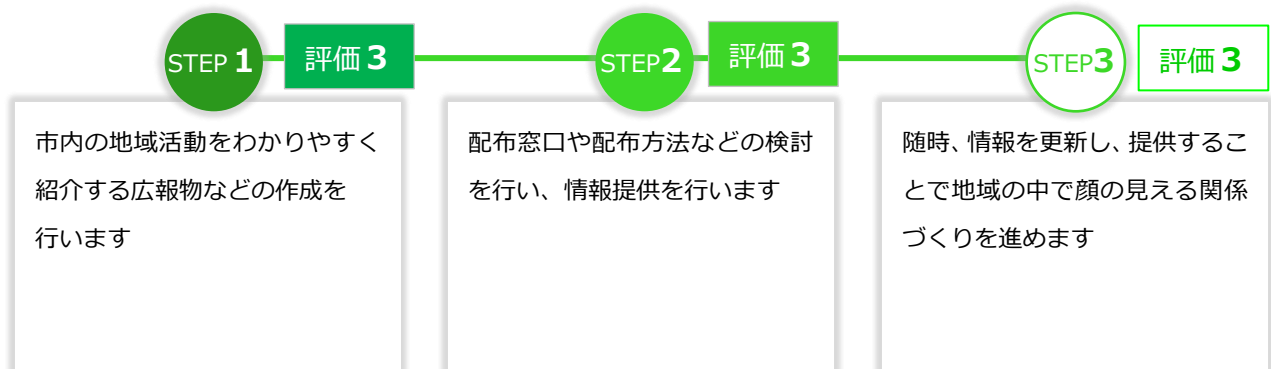
6年間で達成するためのステップ

3つのSTEP
で取り組んだ
こと

- 地域社協では、「丁目活動」「ご近所のつどい」のような範囲の狭いエリアを対象とした活動や、防災・防犯のような世代を問わず関心を持ちそうなテーマについて、各地域で工夫して実施している。たとえば、「おすすめの本」等を紹介する、福祉まつりなど楽しみながら参加できる活動を企画している地域もある。**(STEP 2)**
- 市民社協では、子ども・コミュニティ食堂や子どもの学習・生活支援、フードバンク（食糧支援関連）に関する問合せが増えている。相談内容によって地域社協やキーパーソンにつないでいる。**(STEP 2)**
- ある地域社協では、活動範囲内の 15 棟の開発分譲住宅への転入者を対象とした「ご近所のつどい」を開催し、防災の啓発を行い、その報告を広報紙に掲載した。**(STEP 1)**

(4)-2 転入者に対する地域活動の情報提供のしくみをつくりましょう

6年間で達成するためのステップ

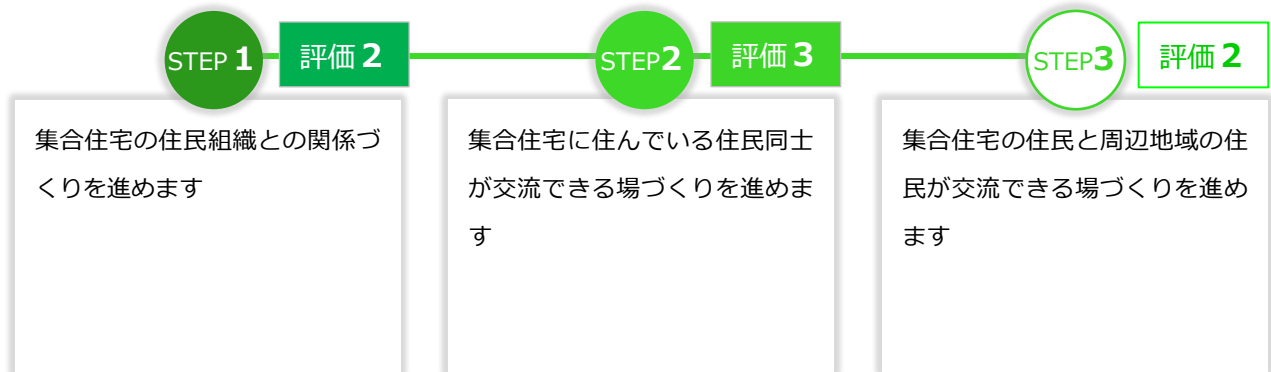


3つのSTEP で取り組んだ こと

- ボランティアセンター武蔵野では、ボランティアを始める人向けのリーフレットや、ボランティアガイドブックを作成し、公開している。(STEP 1)
- いくつかの地域社協では、転入者向けのセットを作成し、配布した地域もある。その中に地域社協の X 等の紹介を行い、最新の情報にアクセスできるような情報提供を行った。(STEP 2)

(4)-3 集合住宅におけるコミュニケーションの場を増やしましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEP で取り組んだ こと

- 地域団体によっては、集合住宅居住者のみを対象とした「ご近所のつどい」や「マンション交流会」「居場所づくり」を開催しているところもある。(STEP 2)
- 地域社協によっては、マンションごとの防災組織の立ち上げに取り組んでおり、近年、建設された新築マンションにも声をかけている地域社協もある。(STEP 1・3)

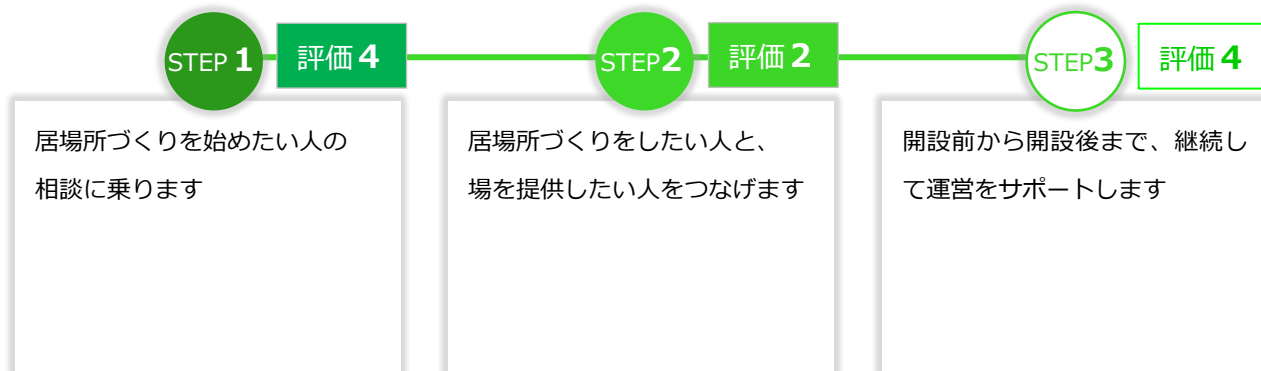
推進委員からのメッセージ

- 防災や防犯の観点から緊急時に備えた顔の見える関係は大切であると考えます。一方で、顔の見える関係を避ける価値観を持つ人もどのように地域に巻き込んでいくのかの検討も必要です。
- 共働きだと日中いないことが多いので、どう接点を持てばいいかも課題になります。改めて顔の見える関係性をつくる時に、どう進めていくかももう一度考える必要があると思います。
- 集合住宅の管理組合が総会や打合せなどを、コミセンを会場に使用して行うことがあります。そこに市民社協職員や地域社協のメンバーが出向き、地域活動の説明の時間をもらうことによって、住人とのつながりを持てると良いと思います。

(5)人と人がつながる「場」をつくる

(5)-1 居場所の数を増やしていきましょう

6年間で達成するためのステップ

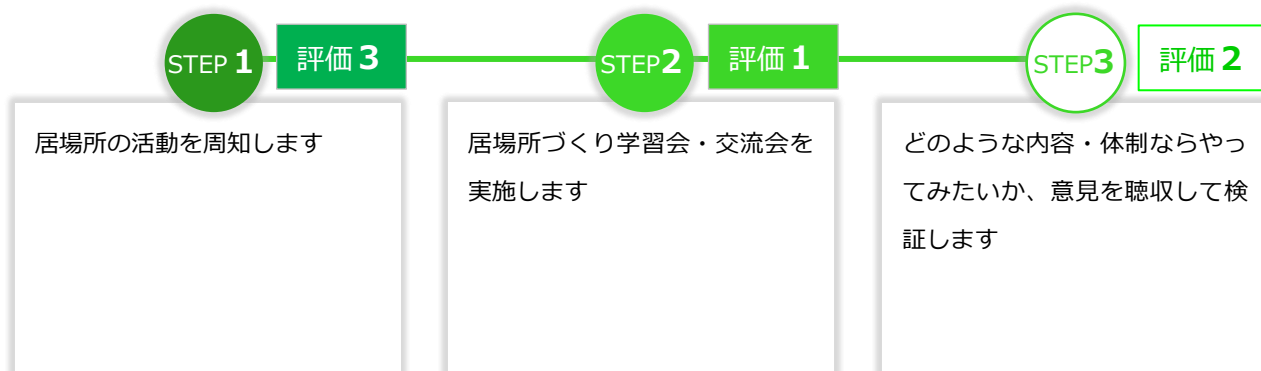


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協では、身近な地域の居場所づくりの立ち上げ支援から、立ち上げ後の継続支援まで行っている。(STEP 1・3)
- 市民社協では、居場所づくりの立ち上げ支援の内容等の5年間のあゆみをまとめた「居場所のチカラ」を令和3年度に作成し、関係機関や住民等に配布した。(STEP 2)

(5)-2 居場所を運営する担い手を増やしましょう

6年間で達成するためのステップ

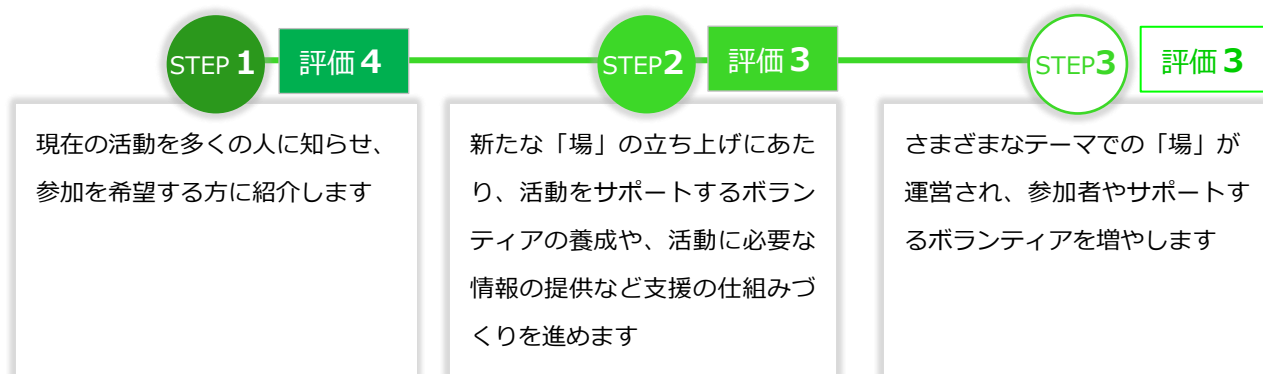


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協ではホームページ等で、居場所を実施している団体の一覧表等を掲載している。また、居場所づくりを始めたい人の学習会、交流会を年1回開催している。(令和5年度に既存の居場所助成事業交付団体を対象とした交流会を開催した) (STEP 1・3)

(5)-3 同じ課題や関心ごとをもつ人同士がつながる「場」をつくりましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協では、市内にある障がい者団体やふたご等を育てる家族の会、転勤族の妻の会、日本語を母国語としない子育て家庭を支援する団体等、既存の団体の活動を把握し、必要な人からの相談があれば、紹介できる状況になっている。
(STEP 2)
- ボランティアセンター武蔵野では、福祉施設等でボランティアを受け入れるボランティアコーディネーターを対象とした研修・懇談会を開催し、情報提供とつながりの場を提供している。**(STEP 1)**
- 市民社協では、子ども・コミュニティ食堂及び子どもの学習・生活支援、子育て支援、フードバンク（食糧支援関連）の活動を始めたいという市民や連携したい企業からの相談に対応した。**(STEP 2)**

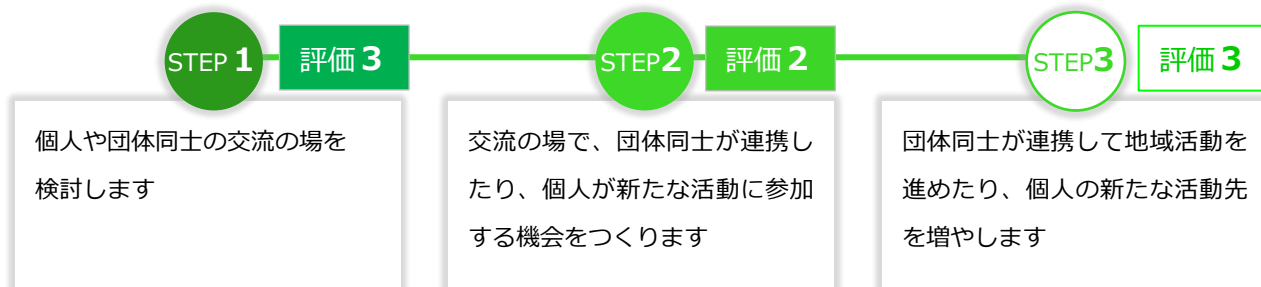
推進委員からのメッセージ

- 講座などの企画を通して、参加者を増やすことも目標にありますが、講師を呼ぶことで新しい関係が生まれていると感じています。講師を引き受けてくれる方とのつながりをつくるという視点も意識していくことが大事だと思います。
- 参加者が増えたかという視点はたしかに大事なことです。それだけではなく、参加者が別の活動に講師を呼んだり、団体同士で連携したりと、新しいつながりに波及することも同じように大事だと思うので、多面的に見ていく必要があると思います。
- 武蔵野市は趣味・特技がある人が多い街なので、そのような方々にも働きかけて、多様な形で展開されると楽しいかと思います。
- 無理やりやらされている感では継続しないと思います。「楽しさ」を核としたおもしろい活動を応援するという視点は、次の計画の柱の一つになると思います。
- 同じ興味や関心を持つ人たちが集まりやすい環境を整え、個人または団体同士が繋がる仕組みづくりをすすめる必要があります。

(6)人や団体同士をつなげる

(6)-1 個人・団体同士の横のつながりをつくりましょう

6年間で達成するためのステップ



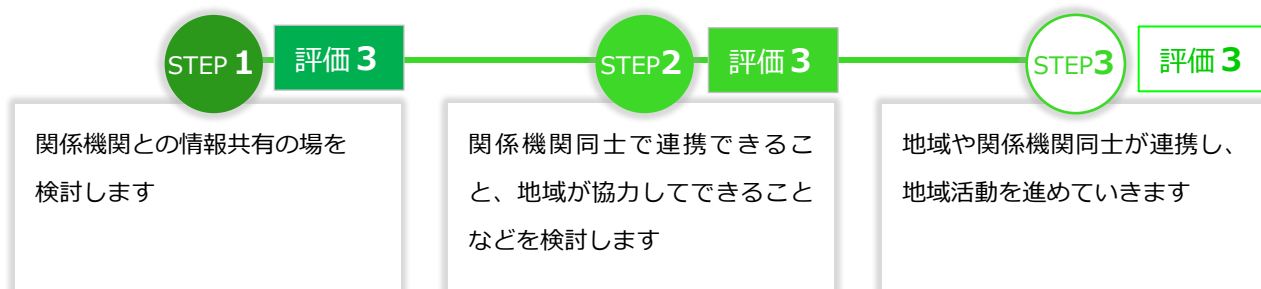
3つのSTEPで取り組んだこと

- ボランティアセンター武蔵野では、ボランティア団体や個人の日頃の活動を体験できる「ボラカフェ」を、令和3年度はコロナ禍のなか、オンラインで開催した。令和5年度は対面開催に戻し、130名が来場してボランティア活動を体験した。(STEP 1・2)
- 各地域社協が合同で課題に対する検討を行うワーキングチームを令和5年度に発足し、「広報紙配布検討」・「次世代につなぐための検討」・「無事ですカード※効果検証」の3つのテーマで話し合った。(STEP 2)

※無事ですカード…練馬区の安否確認ボードを参考に、一部の武蔵野市の地域社協で作成。発災時に自宅前に掲出することで、ご近所同士で安否確認し合うことを目的とし、エリア内に配布した。

(6)-2 地域・関係機関同士の連携を強めましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEPで取り組んだこと

- ボランティアセンター武蔵野では、施設ボランティアコーディネーターを対象とした研修・懇談会を開催し、コロナ禍でのボランティア受け入れに関する情報共有をした。(STEP 1・3)
- 市民社協では、令和5年度より市の相談支援各機関が集まる総合支援調整会議に参加し、各機関と共に包括的な相談支援体制づくりを進めている。(STEP 2)

推進委員からのメッセージ

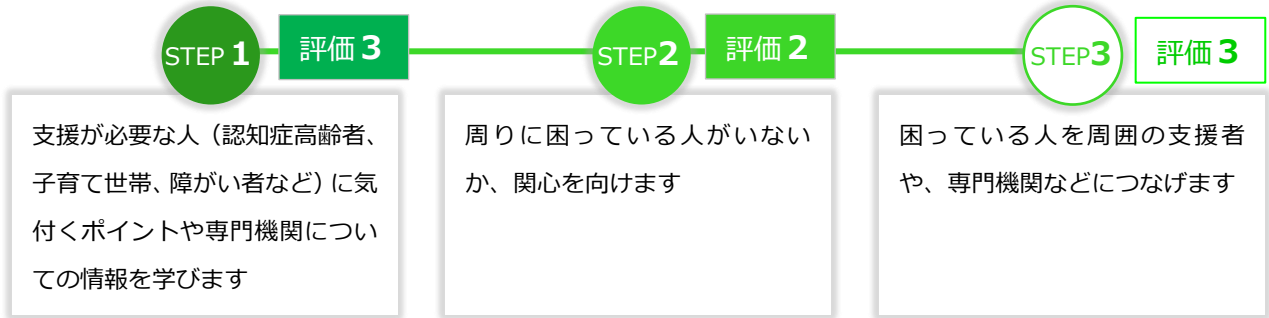
- オンラインスキルを習得する講座を継続することで、若い世代とシニア層の交流が生まれている点も良いと思います。対面とオンラインの長所と短所を見極め、使い分けることも大切です。
- 8050問題やヤングケアラー問題に象徴される複合的な課題への対応には、地域・関係機関同士の連携が必要です。相談を受けた機関が、市や様々な関係機関と連携して情報を共有し、支援ができる体制づくりを今後も推進してほしいと思います。

3 たすけあいのしくみづくり

(7)地域での孤立を防ぐ

(7)-1 住民一人ひとりが周囲の人の異変に気づき、見守りの意識をもちましょう

6年間で達成するためのステップ

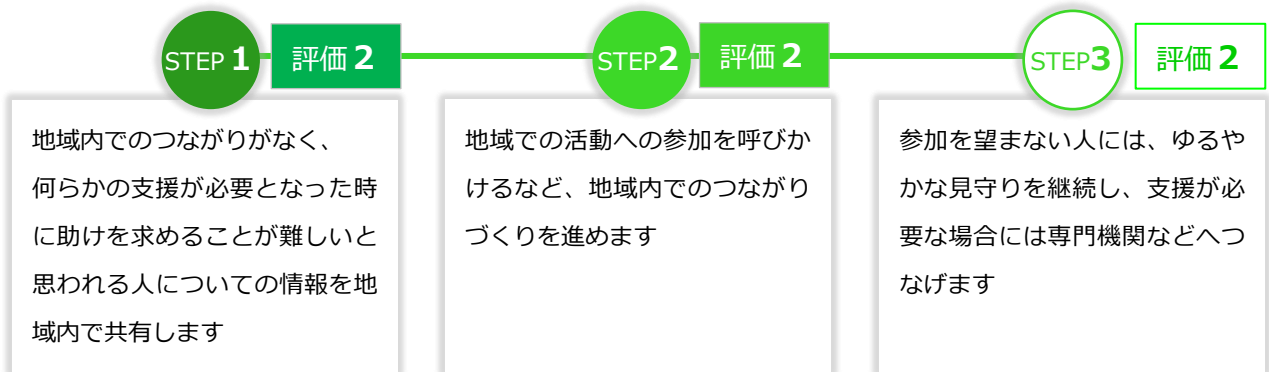


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協では、地域に近いという特性を生かし、困っている人の生活に近い場所で相談を受けるため、令和5年度より、「ちょこっと出先で生活相談」を開始した。実施にあたり、各地域社協の互助のしくみにより、エリア内で支援が必要な人がいればつないでもらう等の協力を依頼している。(STEP 3)

(7)-2 地域とのつながりがない人にゆるやかな関係づくりを試みましょう

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEP で取り組んだ こと

- 地域社協をはじめとする地域活動団体は、サロン活動、丁目活動、居場所づくり等の日頃から顔見知りを増やす取り組みを実施し、普段と様子が違っていたり、支援の必要がある場合には関係機関に連絡している。(STEP 2・3)

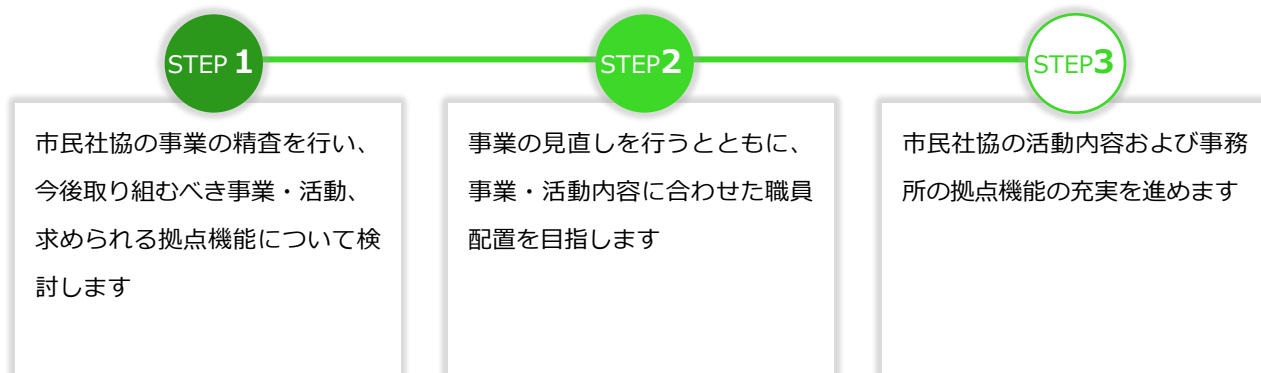
推進委員からのメッセージ

- 地域において日常的に周囲の異変を把握する機会のある民生児童委員や赤十字奉仕団、地域社協などと連携し、総合的な支援のため、些細な情報でも共有できる仕組みが必要です。
- 事業所や団体同士の連携のため、まずはお互いが何をやっているのか知ることが重要です。定期的に情報交換をするなどできることから始めてみるのも良いかもしれません。

(8)地域の福祉活動・ボランティア活動を支える

(8)-1 市民社協の組織体制を強化します

6年間で達成するためのステップ

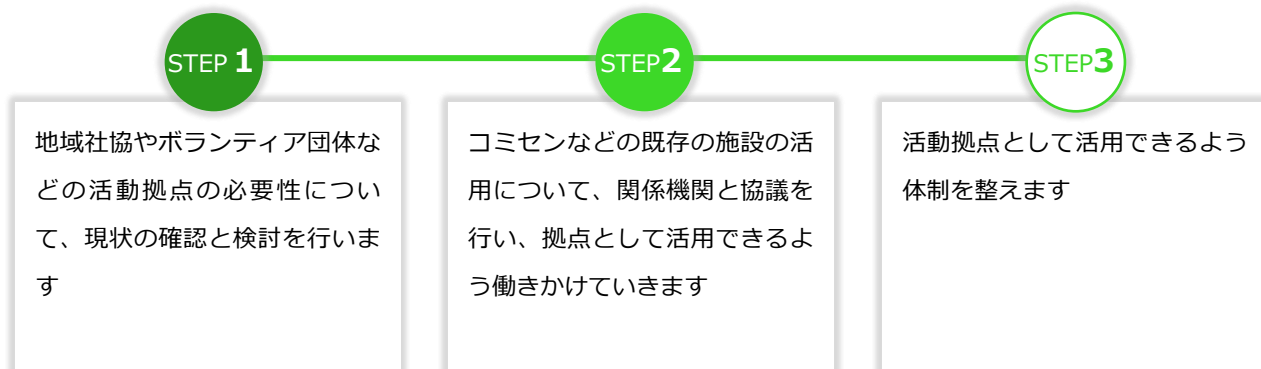


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協が行う全事業の事業評価シートを作成し、「市民社協が何をを行うところか」「どのような役割を果たすのか」を計画的に取り組めるように発展強化計画を策定した。(STEP 1)
- 市民社協では、令和4年度から地域福祉コーディネーター機能として、どこに相談したらよいかわからない方を相談機関につなげることや、地域活動の支援をする地域担当職員を配置した。(STEP 2)

(8)-2 地域活動・ボランティア活動の拠点について検討します

6年間で達成するためのステップ

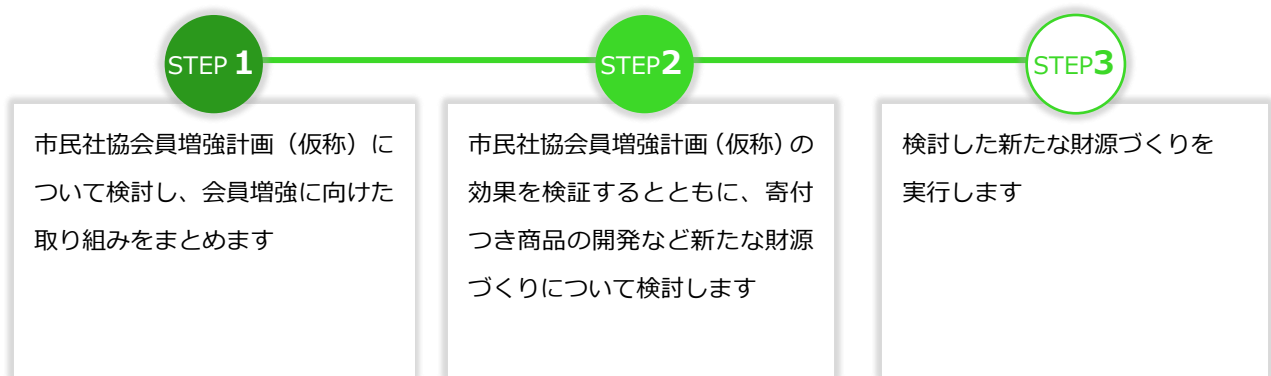


3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協では、ボランティアセンター武蔵野で登録団体向けに現状の活動状況と課題に関するアンケート調査を実施し、活動拠点を含めた団体の課題解決に向けた支援策を検討した。(STEP 1)
- 市民社協では、令和6年度から福祉公社とともに社屋改築事業を行い、新たに地域福祉活動の拠点や地域の交流拠点となる事務所を建設する予定である。(STEP 3)

(8)-3 安定した活動支援ができるよう、財源づくりを進めます

6年間で達成するためのステップ



3つのSTEP で取り組んだ こと

- 市民社協では、会員拡大に向けて、「ゆうちょ銀行口座の新規開設」「シンカブル※（寄付プラットフォーム）を活用した会費振込」「市内の企業等の優待を受けられる会員特典」を実施した。(STEP 1)

※シンカブル…登録された非営利団体へクレジットカード等で寄付をすることができるプラットフォームサービス。市民社協では、会費の振込手段として活用。

2. 重点的な取り組み

(1) 居場所づくりの展開

① 既存の建物などを有効活用している場所が増える

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 地域支援課等の市の関係課と活動場所不足について共有した。
 - テンミリオンハウスやコミセンの活用について協議
 - 「空き家セミナー」でのPR
- 居場所助成事業の見直しを行い、会場費加算を新設し、有料でも既存の場所を活用できるように変更した。

課題

市民社協で取り組みを行う場合の方法や手順について、市担当課や関係機関と協議のうえ進めていく

- コミセン等の既存の場の活用
- 空き家対策
- 集合住宅や福祉施設の建築段階からのアプローチ
- 店舗等への働きかけ

② 運営の担い手が増える

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 居場所づくり学習会・交流会を実施した。
 - やってみたいと思った人向け、現団体同士の交流会 など
- 先行立ち上げ事例を紹介した。
 - 「居場所のチカラ」の発行と動画作成
- 助成事業の見直しを行った。(※①参照)

課題

- 居場所づくり学習会・交流会
 - 対面での学習会・交流会の再開
 - 担い手向けの内容の検討
- テーマ型で集まる居場所のニーズについての検討

③ 魅力ある内容やイベントを実施し、これまで参加していない人に来てもらえるような仕掛けができている

5年間の目標の達成状況

【地域団体】

- それぞれがテーマやターゲットを工夫し、参加したことのない人が関心を持ちやすい居場所づくりを行った。

課題

- 楽しいイベントやターゲットを明確にした、魅力ある企画を出し合える環境づくり
- 参加したことがない人が出向くきっかけづくり

④ 居場所づくりを支援したり、必要な人に紹介する役割が充実している

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 地域担当職員による立ち上げ・運営支援を行った。
 - 立ち上げのサポート
 - 参加を希望する人への紹介
 - 居場所に出向いて参加者からの相談を受ける

課題

地域担当職員による、よりきめ細かい支援
※重点的な取り組み(4)参照

推進委員からのメッセージ

- 地域福祉において、知らない人同士が会う機会は大切な要素です。世代や対象を限定しない集いの場は引き続き必要とされていくと思います。
- 一方で、誰もが集まれるものばかりではなく、対象者や内容に特徴のある居場所があっても良いと思います。多様なニーズの中で、福祉的な要素をどう取り入れていくかが重要だと思います。
- 世代によって居場所の定義も様々なので、固定された場所だけでない選択肢があると良いと思います。どのような居場所づくりができるか、活動者との意見交換を密にして、地域社協や市民社協とも連携を取りながら、今後も考えていければ良いと思います。

(2) さまざまな相談の場と機能の充実

① 相談機関やサービス、地域資源などの情報を多くの市民が把握し、他の人に伝える役割を果たす

5年間の目標の達成状況

【地域団体】

- 各種会合において、関係機関からの情報提供の場を設けた。

- 地域社協代表者連絡会
- テンミリオンハウス代表者連絡会
- 子ども・コミュニティ食堂
及び子ども学習・生活支援
合同ネットワーク連絡会

【市民社協】

- ちょこっと出先で生活相談の説明・PRを行った。

- 地域社協、民生児童委員、赤十字奉仕団、保護司等の団体の会合にて

課題

- 地域活動を行っている市民が、関係機関の情報やサービス等を把握し、他の人に伝える役割を果たせるよう情報提供の仕組みを整える
- 既存の居場所運営団体の研修等の開催を検討する

② 住民が集まる場に市民社協の地域専任担当職員※や関係機関の専門職が顔を出し、気軽に相談できるような体制が実現されている

(※現在は「地域担当職員」に統一して表記している)

5年間の目標の達成状況

【在宅介護・地域包括支援センター】

- 生活支援コーディネーターを中心とした職員が地域のサロン等へ参加した。

【市民社協】

- 地域団体の会議、活動等へ参加した。

- 相談対応の約3割は出向いた先にて

- 武蔵野地域活動はじめてセミナー※を開始した。

※武蔵野地域活動はじめてセミナー…市内の地域活動である地域社協や子ども食堂などの活動を知らない方に向けて、事業内容を紹介する講座

課題

- 在宅介護・地域包括支援センターごとの出向く回数等の差を減らす
- 市民が相談しやすい（市民が集まる場により多く出向くための）地域担当職員体制の整備

③ さまざまな形の住民同士の交流の場が広がり、自分が参加しやすい場所に行くことができる

5年間の目標の達成状況

【地域団体】

- 市民からの意見を取り入れた新しい交流の場を開催した。
-男の料理教室(地域社協)等

【市民社協】

- 交流の場マップを作成した。
(市民社協 40周年記念誌内)

課題

- より多くの団体による、交流の場に参加したことがない人からの意見を取り入れた場づくり
- 交流の場マップの更新

推進委員からのメッセージ

- 武蔵野市の福祉に関わる機関や団体のことをしっかりと理解し、説明できる市民層がいる一方で、「この人に聞けばわかる」というつなぎの役割の人もいるでしょう。市民社協としては、市民のどのような姿を目指し、支援していくかが大事だと思います。
- 地域担当職員がいることで、地域内の取り組みをうまく把握できていると思います。地域の方は自身の地域の取り組みを把握していると思いますので、地域担当職員が介入することによって、他の地域の好事例を共有して横展開ができているのではないかと感じます。
- 武蔵野地域活動はじめてセミナーは、セミナーを受けた方の想いが熱いうちにつないでいくことが大事だと思います。良い取り組みだと思うので、ぜひ続けてください。
- “相談”という看板を掲げると話しづらい、行きづらいという方もいると感じています。相談しやすい環境づくりの一つとして、住民の集いの場などの気軽な機会も支援につながると思います。

(3) 地域社協の発展

① 転入者が地域社協を知る機会が十分に準備されている

5年間の目標の達成状況

【地域社協】

- 地域社協代表者連絡会等の場で検討・情報共有をした。
- いくつかの地域では、転入者向けのセットを作成して配布した。

【市民社協】

- 武蔵野地域活動はじめてセミナーのチラシに転入者の参加を促進する文言を掲載した。

課題

- 地域間での情報共有の継続
- 転入者が参加しやすい企画の検討（市民社協・地域社協共に）
- 市役所窓口での転入者向け地域社協案内チラシの配布検討

② 地域社協の活動の魅力を発信できている

5年間の目標の達成状況

【地域社協】

- 11の地域がXを開設した。
- 広報紙発行を継続しているなか、SNSの広報に切り替えた地域もあった。
- 広報紙配布検討ワーキングを行った。

【市民社協】

- 地域社協運営委員研修を実施した。
 - (R2) ボランティア団体のSNS活用
 - (R3) Twitter(現 X)実践講習
 - (R4) 新しい仲間を見つけるための作戦会議
 - (R5) 仲間を増やすための広報について学ぼう

課題

◎ 効果的な広報の継続と検討

【地域社協】

- Xによる情報発信の継続
- Xの二次元コードを入れたポスターの作成・掲示
- 地域内の掲示板の設置場所拡大

【市民社協】

- 情報更新頻度を上げるような支援
- プロモーションビデオの作成検討

③ 若年層（20～40代）を含めた地域社協の活動者が増加し、新しい視点を取り入れた活動を行っている

5年間の目標の達成状況

【地域社協】

- 広報紙やパンフレットに具体的な参加方法を記載した。
- 役員お試し（体験）期間を設定した。
- 次世代につなぐためのワーキングを行った。

【市民社協】

- 市民社協が実施するボランティア講座等の講座受講者に紹介した。
 - 武蔵野地域活動はじめてセミナー
 - 地域福祉ファシリテーター養成講座※
 - VCM 窓口の来所者への情報提供

※地域福祉ファシリテーター養成講座…大学と近隣市・社協の合同で、地域福祉活動について学ぶ連続講座。

課題

【地域社協】

- 「運営委員募集」の表現の工夫
 - 手伝って欲しいこと、参加して欲しいことの内容を具体的に
- 短時間の活動や負担感の少ないことから参加できる仕組みづくり

【市民社協】

- 地域での福祉活動に関心をもってもらえるような情報提供の方法
- 講座のあり方の検討・見直し

④ 支援を必要とする人をサポートする取り組みが行われている

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 「ねこの手ボランティア※」を開始した。
※生活上の困りごとをボランティアにより支援する仕組み（ボランティアセンター武蔵野）
- 地域担当職員の役割や機能を整理した。（※重点的な取り組み（4）参照）

課題

- 他の地域団体との事業の連携、独自の活動のあり方について検討する際に、個別支援についても検討を進める
- 地域福祉コーディネーターの機能を地域担当職員の機能に含め拡充

⑤ 地域の他団体の事業、イベントとの統合、再編などを通じて負担の軽減、人材の有効活用ができています

5年間の目標の達成状況

【地域社協】

- 地域行事の統合や再編について、コミセンや町会と話し合いを行った。
- 他団体との共催イベントにおけるそれぞれの役割の見直しをした。
- 新役員へのスムーズな引き継ぎのための資料を作成した。
-地域内の他団体の事業概要や各担当の活動内容について記載

課題

- 各地域で見直しを進められるようなきっかけづくり
- 活動の優先順位等のあり方と人材不足について検討する
-④も含めて検討の機会を設ける

⑥ 活動に必要な場所が確保できている

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 第6期地域福祉計画策定に向けて、市と市民社協で意見交換を行った。
*改正社会福祉法の規定に応じた活動支援についての検討の1つとして

課題

- 地域社協を交えて検討する
-どのような機能が必要なのか（拠点に求める機能や役割の整理）
- コミセンや福祉施設、店舗などの場の活用についての関係課や団体との話し合い

⑦ 災害時要援護者対策事業の支援団体として感じている課題を話し合う場があり、解決に向けた取り組みが行われている

5年間の目標の達成状況

【地域社協】

- 市との意見交換会を実施した。
- 無事ですカード※効果検証ワーキングを行った。
※練馬区の安否確認ボードを参考に、一部の武蔵野市の地域社協で作成。発災時に自宅前に掲出することで、ご近所同士で安否確認し合うことを目的とし、エリア内に配布した。

課題

- 事業を請け負うことの負担や課題についての市との継続した話し合い

⑧ 地域専任担当職員※により、よりきめ細やかな地域社協への支援が行われている
(※現在は「地域担当職員」に統一して表記している)

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 地域社協の会議、活動等へ参加した。
- コロナ禍中も活動支援を行った。
 - 市民社協 Facebook にて各地域からのメッセージをリレー形式で発信
 - 新型コロナウイルスに負けない地域活動を行うためのメッセージ発信
 - オンラインを取り入れた代表者連絡会
- 地域社協運営委員研修を実施した。
 - 地域社協はじめて研修
 - Zoom ミニ研修
 - 新しい仲間を見つけるための研修



- 地域担当職員による、よりきめ細かい支援
- 地域社協と連携し、地域の課題を共に考え解決の仕組みをつくる
※重点的な取り組み(4)参照

⑨ 地域社協の事務が簡素化し、負担なく活動できている

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

- 会計やボランティア保険の名簿等のフォーマットの見直しや簡素化を行った。
- 月間予定表の提出を廃止した。



- 本会計と災害時要援護者対策事業の会計の一本化

推進委員からのメッセージ 

- 3つの地域社協課題検討ワーキング「広報紙配布検討」・「次世代につなぐための検討」・「無事ですカード効果検証」は、現場の人たちが何を困っているのか、どのような現実があるのか、その課題を隣の地域ではどのように考えているのか、それらを共有する良い機会になったのではないかと思います。新たな発想が出てくると思いますので、ぜひ続けてください。
- 「地域社協が何をやっているのか」をどう伝えたらいいのかは、メンバーの一人として常に感じています。一緒に活動しようと誘う際に説明の一助となる良い“何か”については、引き続き取り組みを進めていって欲しいと思います。

(4) 地域福祉コーディネーター(仮称)の役割や機能の整理

地域担当職員が各機関と連携しながら次の4つの役割を果たしている

〔地域福祉コーディネーター(仮称)の機能〕

- ① サービスや支援につなぐ
- ② 孤立している人を地域住民につなぐ
- ③ 地域の課題を共に考える場をつくる
- ④ 解決の仕組みをつくる

5年間の目標の達成状況

【市民社協】

武蔵野市における地域共生社会の実現に向けて、市民社協が担うべき役割を検討した。

- 地域福祉コーディネーター(仮称)機能設置に向けた取り組みに関する関係機関へのヒアリング調査(11か所)を行った。
 - 地域福祉コーディネーター(仮称)立ち上げ検討委員会を開催した。
 - 「ちょこっと出先で生活相談」を開始した。
-市内各所で市民の困りごと相談を実施
 - 既存の人員体制の中で兼務により、地域担当職員の体制を強化した。
- 課題
- 地域担当職員の機能の拡充
 - ① 孤立している人を地域住民とつなぐ
 - ② 課題に対応した新しい制度・しくみづくりの場
 - ③ ケース検討・事例検討の場
 - 全職員間での情報共有の充実化
 - 市民の生活課題の解決に向け、オール市民社協で取り組む

推進委員からのメッセージ

- 地域福祉コーディネーターについては、長年検討を進めてきたので、きちんと位置付けられたことは良かったと思います。「地域福祉コーディネーターのベースにある機能」と「武蔵野市ならではの求められる機能」をどう整理するかが、次期の展開になると思います。
- ちょこっと出先で生活相談はとても良い取り組みだと思います。様々な場所での実施を目指していく一方で、「今回行けなかったので次回相談したい」というニーズも想定し、ある程度場所を固定化していくことも大事な視点だと思います。
- 福祉サービスが必要にもかかわらず、地域で誰ともつながりがない方を、互助のつながりの中で発見し、市も含めた支援体制につなげていくことができれば良いと思います。それは、地域福祉活動計画と連動していく市の地域福祉計画にも明文化しています。市の地域福祉計画と一体的な計画として、これから策定する次期地域福祉活動計画でも同じように進めていただければと思います。

3. 次期計画策定に向けて～推進委員から一言～

千種副委員長	計画の策定にあたり大切なことは、シンプルかつ実行性があるかどうかだと思います。その時代のニーズに合ったものが必要となりますが、課題に向き合うには市民感覚での学びや臨機応変な対応力が求められるのではないかと思います。
宇田川委員	市民社協職員と推進委員との間で話し合われた意見等を参考に、地域社協ごとの取り組み内容や目標などを大切にしながら、役立てていただければと考えます。そして、これからの地域社協の発展を願っています。
大屋委員	「千里の道も一歩から」という諺があるように、我々の歩く道は遠いと思いますが、確実に一歩一歩前に進んでいます。居場所事業は確実に前進していると思います。 できるだけ皆さんに読んでいただけるようシンプルな活動計画を作っていただけることを期待しています。
川鍋委員	地域社協によっては、若手役員も増えてきています。次の世代に向けて市民社協の活動を伝えていくことも必要だと思えます。今後もいろいろな場面でお手伝いできればと思っています。
田中委員	推進委員として深く関わってきた中で学んだことは、「私たちは多くの強みを持っており、これを活かす・活かせる方法に焦点を当てることが重要」「計画書の形より一枚の用紙で伝える単純明快さこそ、活動につながる」でした。シンプルで気持ちの伝わる次期計画を期待しています。
深田委員	少子高齢化が進む社会にあって、地域の福祉活動の重要性はますます増しています。計画の期間は、新型コロナウイルス感染防止のため、多くの活動が制限された期間でありました。この6年間計画どおり進んだこともありますが、十分進まなかったものも見受けられます。次期計画でぜひ進めていただければと思います。
福山委員	地域に明るい市民社協ならではの役割として、福祉サービス等の利用が必要であるにもかかわらず地域でのつながり等が無いために支援につながっていない方を、地域社協などを中心とした地域の互助の仕組みで気づき、市民社協に伝え職員が寄り添いながら、本人の課題を整理し市や適切な支援機関等につなぐことで地域福祉活動を推進することを期待しています。

4. 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会名簿

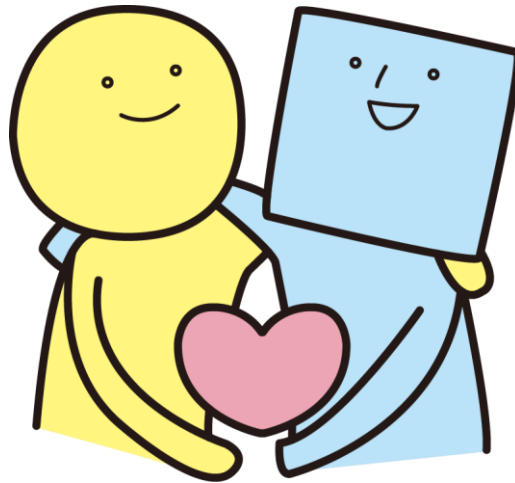
(任期：令和3年2月25日～令和7年3月31日まで)

◎ = 委員長、○ = 副委員長 (50音順・敬称略)

	氏名	所属団体等	役職 (就任時)
1	宇田川 みち子	武蔵野市赤十字奉仕団	委員長
2	大屋 朋代	吉祥寺西地域福祉活動推進協議会	会計監査
3	矢島 和美※1	武蔵野市民生児童委員協議会	代表会長
	川鍋 和代※2		
4	◎ 熊田 博喜	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科	教授
5	田中 邦忠	ボランティアセンター武蔵野 運営委員会	運営委員
6	○ 千種 豊	武蔵野市民社会福祉協議会	会長
7	深田 榮一	吉祥寺西コミュニティ協議会	委員長
8	小久保 渉※1	武蔵野市健康福祉部地域支援課	課長
	福山 和彦※2		

※1…委嘱期間：令和3年2月25日から令和4年9月1日まで

※2…委嘱期間：令和4年9月2日より



第4次武蔵野市民地域福祉活動計画

6年間のふりかえり報告書

(2019～2024)

令和6年8月発行

発行：第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会

事務局：社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

武蔵野市吉祥寺北町一丁目9番1号

(TEL) 0422-23-0701

(FAX) 0422-23-1180

Eメール：shimin@shakyou.or.jp